

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 教育目標

教育理念「高い知性、強靱な気力、豊かな情操の育成」

～自らの能力や個性を生かし、創造的に生きることによって、社会に貢献し世界で活躍する人材を育成する～

目指す学校像及び児童像

①学校像「どの子どもが未来をめざして自己実現を図り、自己達成感を味わえる学校」

②児童像「考えて行動する子、粘り強く取組む子、人を思いやる子」

③教職員像「かけがえのない子ども理解を基盤として、最優先すべき学園・学校の課題を共有し、自ら進んで真摯に取り組みを進める教職員」

2 中期的目標

1 安定した学校運営

- (1) 募集定員の確保
- (2) 進学・進路実績の向上
- (3) 幼小・小中高との連携深化

2 新しい学びの構築

- (1) ICT教育推進と環境整備
- (2) 国際教育の内容・体制の充実
- (3) 理科教育内容・体制の充実

3 教育の基盤づくり

- (1) 人を思いやる心の育成
- (2) 子どもに寄り添うシステムの充実
- (3) 体力のある子の育成
- (4) アクティブ・ラーニング「グループ・ペア学習」の実践とその充実
- (5) 学校図書館活用教育の推進

4 教育活動のブラッシュアップ

- (1) 幅広い体験学習の体系化
- (2) 教育評価～教育活動全般のPDCAサイクルの確立～
- (3) 到達度テストの効果的活用

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会〔平成29年3月21日〕からの意見
<p>1 安定した学校運営（自己評価B／3段階）</p> <p>・入試について、入学者数は87名から84名に3名減少。</p> <p>・2017年度中学入試合格速報を提示。内部進学率は下がったが、外部難関中学校への合格者数、進学者数(進学率)ともに上昇。</p> <p>・学力上位層への手立ての効果(グループ・ペア学習の効果を含む)と共に、低学力層への底上げ対策が課題。</p>	<p>・地域の者から見ると、「よい評判」を多く聴くようになった。</p> <p>・初芝キャンパス東側の歩道工事が完了して嬉しい。地域住民の通行に安全性が高まった。</p> <p>・サイエンスの取り組みで地域との連携活動ができたことは大きな進歩。</p> <p>・はつしば学園小学校の保護者アンケートで「わが子を入学させてよかったと思う」が94%、児童アンケートで「この学校に入学してよかった」が97%。</p> <p>いずれも満足度が高い証拠で、自信を持ってよい。</p> <p>・体験学習に全学年宿泊行事を取り入れていてよいと思う。公立では、しない方向で検討している。私立ならではの取り組みとして頑張っていて欲しい。</p> <p>・ホームページによるPR効果は、今後も高いだろう。ホームページの公開の仕方を工夫してもよいのではないかな。</p> <p>・英語教育は公立小学校でも教科化されるが、ネイティブの先生の確保が難しい。私立ではできていることを、もっとアピールしてよいのではないかな。ネイティブの先生の様子を動画などでアップしてはどうか。</p> <p>・いじめについては、解決はケースによって違いがあるので難しい。いじめはなくなることはないだろうが、取り組みによって減らすことは可能ではないかな。保護者・児童によっては、相談することで表面化することを恐れる傾向があるので、慎重に取り組む必要があるだろう。</p> <p>① 委員会の実施日 第1回 平成28年7月12日実施 第2回 平成29年3月21日実施</p> <p>② 参加者 地域代表者、学識経験者、保護者会代表</p>
<p>2 新しい学びの構築(自己評価B／3段階)</p> <p>【ICT機器活用教育】【国際教育】【はつしばサイエンス】について、子ども達の様子を動画にて紹介。本校の新しい取り組みの認知度は上昇。</p> <p>【基礎学力の充実】について、動画による紹介。</p>	
<p>3 教育の基盤づくり(自己評価B／3段階)</p> <p>保護者・児童・教員自己評価アンケートのデータを提示し、評価と課題について報告を行った。肯定的評価85%以上を到達目標に設定。</p>	

4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 安定した学校運営	(1) 募集定員の確保 ア 募集活動の体制作り ・はつしば学園幼稚園からの受験者・進学者増 ・在校生弟妹の入学者確保 イ 募集重点地域からの受験者確保 ・JR阪和線沿線からの受験者数確保の取り組み強化 ウ 各募集活動の工夫と参加者数確保	ア はつしば学園幼稚園からの受験者・入学者増と在校生弟妹の入学者数確保 イ 重点地域からの受験者増 ① 小学校周辺地域・和泉市のポスティング実施 ② JR阪和線沿線の幼児教室への訪問強化 ウ 各回の募集行事の内容に変化を持たせ、参加者増を図る。	ア はつしば学園幼稚園からの受験者目標10名 ・在籍児童の弟妹入学者95%以上 イ 重点地域からの受験者数前年度以上 ・JR阪和線(鳳、岸和田方面)からの入学者数前年度以上 ウ 各回の説明会、オープンスクールにて、それぞれ前年度参加者数を上回る	ア 受験及び入学者：2名であった。(目標達成率は20%) ・在校生弟妹の入学率は87.0% 目標達成できず。 イ 東区受験者数は4名減少 ※堺市全域からの受験者も減少 ・近鉄沿線受験者数は3名増加。 阪和線沿線受験者数は4名減少。大阪市内が3名増加。 毎年の傾向が変動する中、ポスティングなどは対象年齢が低い家庭もあり、即効果があるとは言いがたい。 ウ 募集行事への参加者延べ人数は、昨年比較16名増加。年長児参加者の延べ人数も39名増加。工夫の効果あり。	・はつしば学園幼稚園との連携については、幼児を対象とした知育教室と子育てサロンは継続。 ・堺市内からの受験者回復を強化。周辺地域からの受験は増加している場所もあるので引き続き、園や幼児教室など拠点となる所との関係強化や宣伝活動に努める。 ・幼稚園保育園や幼児教室新規開拓継続。 ・在校生の協力要請などロコミを重視、本校のファン、リピーターを増やす努力。 ・受験直近の5・6年のみならず、低学年からの進学についての手立てを加える ・難関中受験指導への配慮(ニーズにあったもの)を学校体制で整える ・系列中学校との連携は今まで通り実施 ・交流活動の内容充実と精選
	(2) 進学・進路実績の向上 ア 進路指導体制の強化 イ 内部進学率の向上(系列中学校との連携深化) ウ 難関中学校受験への支援 (3) 小中高との連携強化 ア 保護者への啓発活動 イ 迅速な中学受験情報の発信	(2) ア 進路指導体制の強化 ① 保護者・児童への丁寧な進路指導 ② 担任と児童の2者面談の実施 ③ 担任と保護者との複数回にわたる進路相談 イ 内部進学率の向上(系列中学校との連携深化) ① 系列校の中学校教員による受験対策講座 ② 内部進学希望者へ指導強化 ウ 難関中学校受験への支援 ① 習熟度別授業で難関中学校の入試対策問題実施 (3) ア 保護者説明会の校内開催・出前個別相談の開催 イ 系列各中学校主催の学校説明会に本校教員が出席し、その内容を共有。 ・カリキュラムでの繋がりをめざす	(2) ア 保護者アンケートの進路指導関係の項目において、85%以上。 イ 内部進学率60%を目標とする ウ 難関中学校(灘、西大和、東大寺、大阪星光、清風南海、四天王寺)の合格者数(延べ)20名以上 (3) ア・イ・(2)ーアと同じ保護者アンケート項目の肯定的評価85%以上を目標とする。	(2) ア 左記のアンケートにおいて全校で83%の肯定的評価。特に6年生では90%の評価を得た。 イ 内部進学率は32.4%(昨年度41.1%)で目標達成ならず。 ウ 難関中学校延べ合格者数は36名(昨年度24名)で目標達成。灘中学校に1名合格。西大和8名、四天王寺7名はいずれも過去最高の合格者数。進学者数は計21名(20.6%)であった。 (3) ア・イ 保護者アンケートの肯定的評価は86%であった。(前年度より3%増加)目標は達成できた。	
2 新しい学びの構築	(1) ICT教育推進と環境整備 ア ICT機器活用による情報教育の推進 イ 英語の授業におけるICT機器活用 ウ 一人1台のタブレットPC環境完了 (2) 国際教育の内容・体制の充実 ア 本校ならではの英語	(1) ア 積極的にICT機器を活用する ・汎用ソフトや学習支援ソフトの有効活用について研究、実践事例の共有化を図る。 ・情報教育年間カリキュラムを作成・ポータルサイトの構築完了並びに活用方法の検討 イ 英語教育におけるICT機器利活用の推進 ウ 1年にタブレット端末導入、実践 (2) ア 低学年から「読み」「書き」を取り入れ、「聞く」「話す」との4技能のバ	(1) ア 年間カリキュラム及び実践事例研究についての資料化を図ることを目標とする。 ・保護者アンケートのICT教育関係の項目において、85%以上の肯定的評価。 イ 英語の授業において効果的に使用すること。 ウ 1年にタブレットを導入し、初歩の授業実践を行う。 (2) ア 保護者アンケートの国際教育の項目におい	(1) ア ICT機器活用については稼働率ほぼ100%。 ・汎用ソフトを活用した情報教育については学年によって差が生じた。 ・保護者アンケートは、80%(前年度85%)が肯定的評価で目標達成ならず。 イ 授業では、毎回使用することができた。より、効果的な使用について検討することが課題。 ウ H28.11月にタブレット端末を導入し、初期の授業実践を行った。(目標達成) (2) ア 保護者アンケートは、それぞれ62%と78%の肯定的評価で	(1) ・全教員毎日活用しているが、回数とその内容には差がある。ボトムアップの為、活用例の情報交換を活発にする。 ・より実践活用できるカリキュラムの作成が必要。 ・タブレット活用は、その使用学年との関係を含め、検討する時

	<p>教育、国際教育の展開</p> <p>イ 初芝立命館高校の留学生との交流実践 ・初芝立命館中学校との連携活動と小中接続会議の開催</p> <p>(3)理数科教育内容・体制の充実 ア「はつしばサイエンス」の完全実施</p> <p>イ 放課後サイエンス教室における競争的資金の活用</p> <p>ウ 初芝立命館中学高等学校との連携強化</p>	<p>ランスを図り、授業内容を工夫する。 ・国際教育の充実 ・修学旅行に向けた活動の計画的展開 ・国際教育イベントの参加者増を図る</p> <p>イ・初芝立命館高校の留学生との定期的交流 ・初芝立命館中学との小中英語接続会議の定期的開催</p> <p>(3) ア・生活科(低学年)から理科(中高学年)へのスムーズな移行を目指した年間指導計画の実施 ・ICT機器の効果的活用</p> <p>イ・放課後を活用しサイエンス教室を開講 ・資金は、河川財団等の助成により補助を得て活動する。活動内容をそれぞれの財団に報告</p> <p>ウ・小学校と中高の理科教員との連携、授業見学等の授業力向上</p>	<p>て、各85%以上の肯定的評価。 ・児童アンケートの国際教育の項目において、85%以上の肯定的評価。 ・各国際体験イベントに前年度参加者比で増加を目標とする。</p> <p>イ・留学生との交流授業を3回以上実施することを目標とする。 ・接続会議を1学期に1度以上実施することを目標とする。</p> <p>(3) ア・年間指導計画表に基づいた実践を目標とする。 ・保護者アンケートの理数科教育関係の項目において、85%以上の肯定的評価。</p> <p>イ・サイエンス教室の開講並びに河川財団等への実践報告書完成を目標とする。</p> <p>ウ・連携強化を目的とした会議を1学期に1度以上実施することを目標とする。 ・お互いの授業力向上を目的とした授業見学を定期的に行うことを目標とする。</p>	<p>目標達成できず。 ・児童アンケートは、69%の肯定的評価で目標達成できず。 ・各学年で英語がよくできる子、やや苦手になっている子がいるが、それぞれの子への手立てが必要で、今後の課題である。 ・カナダ語学研修(0→3)、イマージョンキャンプ(52→42)、サマーキャンプ(28→28)、レシテーションコンテスト(21→12)、ニュージーランド語学研修(7→8) ・イベントによって、参加者数の増減に違いがある。目的や内容に改善、工夫の必要あり。</p> <p>イ・留学生との交流授業は3・4年生で数回実施。一応目標は達成できたが、内容について改善と工夫の必要あり。 ・接続会議の開催は次年度継続課題。</p> <p>(3) ア・年間指導計画に基づいた実践はできた(目標達成) ・保護者アンケートは、86%肯定的評価。 ・それぞれの単元が、子どもたちの発達段階に見合っているかの検証、研究は次年度への継続課題。 ・ICT機器を効果的に活用することができた(目標達成)</p> <p>イ・サイエンス教室の開講、活動実践は予定通り(目標達成) ・河川財団の研究校採択に加えて、公益財団法人日本科学技術振興財団主催、エネルギー教育モデル校事業においてモデル校として認定を受け、担当者より実践報告書を提出完了。(目標達成) ※エネルギー教育校については平成30年度までの3年間。 ※パナソニック教育財団研究指定校に採択を受ける(30年度までの2年間)。</p> <p>ウ・会議の開催はできなかったが、初立中・高教員と共に大阪府高等学校生物教育研究会の研修に参加。さらに、初立中高教員に対して研究会役員を委嘱。連携を継続することはできた。 ・授業見学には積極的に参加し、意見交換を通して連携強化を計った。本校の授業見学や授業交流等を呼びかけたが実現ならず。目標達成できず。</p>	<p>期。より、授業内容に関わって実践研究する。 (2) ・新スタッフへの移行で、管理職・業者も含め、バックアップしながらレベルダウンにならないように取り組む。 ・カリキュラムを整備したので、活動内容を検証しより充実をめざす。 ・イベントについては、ブラッシュアップし、参加者増に努める。 ・留学生とのより計画的な交流活動計画は継続する。 ・接続会議について検討の必要あり。 (3) ・「はつしばサイエンス」の充実を目指し、体験活動(実験・観察)を積極的に導入</p>
3教育の基盤づくり	(1)人を思いやる心の育成 ア 生活目標「挨拶・歩く・靴」の徹底と定着	(1) ア・「挨拶」は、校内は毎朝実施、北野田における挨拶運動は原則月に1回実施 ・「歩く」指導は、教員を配置、指導を徹底	(1) ア、イ ・保護者アンケートの生活習慣定着の項目において、85%以上の肯定的評価。	(1) ア、イ ・「自問清掃」は、場所によって取り組みに差があり。 ・保護者アンケートで93%(前年度92%)の肯定的評価で目標達成	(1) ・自問清掃の意義を再度職員で共通理解

	<p>イ 子どもたちの自主性の育成強化(自問清掃など)</p> <p>(2)子どもに寄り添う教育相談等システムの充実 ア メンタルサポート(MS)会議の充実 イ 課題を持つ児童への支援体制作り ウ 従来のアンケート調査に加え、外部機関による「学校安全調査」(子どもの発達科学研究所)を実施・その結果の分析と子どもへの指導</p> <p>(3)体力のある子の育成 ア 体育のカリキュラム作成 イ 「はつしばっ子体力アップ大作戦」の継続取り組み ウ 食育の指導力向上と強化</p> <p>(4)アクティブ・ラーニング「グループ・ペア学習」の実践とその充実 ア 研修・公開授業の実践継続 イ 学年研修と教科研修の連携</p> <p>(5)学校図書館活用教育の推進 ア 学校図書館改修計画</p> <p>イ各教科での効果的な図書館活用とタブレットとの併用による情報活用センターとしての機能強化</p>	<p>・「靴」は、見た目と心の両面で、細やかに学級指導を継続。</p> <p>イ ・「自問清掃」について学年学級で共通理解し、丁寧に指導</p> <p>(2) ア・イ ・教育相談日にはスクールカウンセラーによる保護者の相談・学級巡回・教員への助言の継続</p> <p>ウ ・安全調査等を実施、校内の分析を通じて課題発見、指導に反映 ・いじめの早期発見に努める</p> <p>(3) ア・イ ・はつしば体育のカリキュラムを実践し、見直し、改善 ・共通理解し、学校全体で指導</p> <p>ウ ・児童(給食委員会)による食に関する情報提供</p> <p>(4) ア・イ ・年10回の研修、公開授業 ・学年研修、教科研修の継続により学びの質の向上、及び教師一人ひとりの指導力の向上を目指す</p> <p>(5) ア・イ ・夏休み中に改修。子どもの読書センター及び、学習情報センターとしての機能充実を図る ・子どもの学習に有用な書籍を購入</p> <p>イ・各教科での効果的活用 ・タブレットとの併用による授業展開</p>	<p>(2) ア・イ ・保護者アンケートの教育相談関係の項目において、70%以上の肯定的評価。</p> <p>ウ ・保護者アンケートの教育相談関係の項目において、85%以上の肯定的評価。</p> <p>(3) ア・イ ・実施の有無 資料配布、実施の有無</p> <p>ウ ・保護者アンケートの給食に関する項目において 85%以上の肯定的評価</p> <p>(4) ア・イ ・保護者アンケートの授業内容に関する項目において、85%以上の肯定的評価。</p> <p>(5) ア・イ ・改修工事の完了(8月) ・蔵書について、購入計画のもと1万冊以上を目標とする</p> <p>イ・教科部会の中心に、学校としての学校図書館活用教育の推進ができることを目標とする</p>	<p>成 ・校内挨拶運動は毎日実施、北野田駅挨拶運動(年10回)実施 ・細部に渡る教員の共通理解が課題</p> <p>(2) ア・イ ・左記アンケートにおいて 61%(昨年度は68%)の評価で目標達成ならず</p> <p>ウ ・左記アンケートでそれぞれ78%、90%、92%(昨年度は83%、91%、91%)であった。</p> <p>(3) ア・イ ・いずれも実施した。</p> <p>ウ ・左記アンケートにおいて、94%(昨年度95%)で目標達成</p> <p>(4) ア・イ ・左記アンケートにおいてそれぞれ86%、91%(前年度85%、90%)で目標達成</p> <p>(5) ア・イ ・H28.8月改修工事完了 ・蔵書については、購入計画に基づいて1万1千冊を達成(目標達成) ・「国際教育」「はつしばサイエンス」「英語教育」「国際教育」各コーナーを設営 ・蔵書管理システムソフト(情報BOX)を導入し、図書館利活用が充実</p> <p>イ・国語科を中心に各教科での図書館資料活用授業の実践はできた。</p>	<p>・根気強い指導</p> <p>(2) ・学校教育相談体制の確立 ・児童理解を徹底し、学校体制で児童の見取り、保護者への対応を考える</p> <p>(3) ・カリキュラムを基軸に体育活動のより一層の充実 ・食育活動の推進</p> <p>(4)(5) ・次期学習指導要領を見据えたカリキュラムのデザインとカリキュラムマネジメントの充実 ・タブレットとの併用を含め、教科横断的総合的な授業展開による図書館活用が必要。</p>
<p>4 教育活動のブラッシュアップ</p>	<p>(1)幅広い体験学習の体系化 ア 学校生活と宿泊体験の連続性</p> <p>(2)教育活動全般のPDCAサイクルの確立 ア 学校評価(保護者、児童、教員自己評価アンケ</p>	<p>(1) ア日々の学校での指導と宿泊体験中の指導とのリンクを心がける</p> <p>(2) ・学校の実践に合わせた、保護者アンケートの項目を再度考案し、学校評価に反映。</p>	<p>(1) ア 保護者アンケートの学校行事に関する項目において、90%以上の肯定的評価。</p> <p>(2) ・保護者アンケート項目の見直し実施の有無</p>	<p>(1) ア・左記アンケートにおいて全校で97%(前年度96%)の肯定的評価(目標達成) ・学校生活から宿泊体験への連続性を持たせた事前授業は継続課題。 ・運動会を春(5月)に実施。演技競技の準備期間不足が懸念されたが本番を見る限り十分な成果が得られたと考えられる。</p> <p>(2) ・アンケート項目を見直し、より学校評価に反映できるようになった。(目標達成)</p>	<p>(1) ア・臨海学舎の行き先変更による実施内容検討 ・運動会の室内実施による運営・内容変更など企画、実施準備</p> <p>(2) ・授業評価の実施に努める ・必ず次年度に</p>

<p>ート)の見直し</p> <p>(3)到達度テストの効果的活用</p> <p>ア テスト内容の研究</p> <p>イ 到達度テストと児童の学力との整合性、駿々堂テストとの相関の検証</p>	<p>(3)</p> <p>ア・年2回(11月・2月)の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果を前年度比較し、子どもの指導に反映 ・国語、算数、理科のテストを実施 <p>イ・到達度テストの結果が高学年で行う駿々堂学力テストの偏差値と比較し相関性を検証する。</p>	<p>(3)</p> <p>ア・実施の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果の検討、指導に反映の有無 <p>イ・検証の有無</p>	<p>・「授業評価アンケート」は実施できず、次年度以降への課題。</p> <p>(3)</p> <p>ア・年間予定通り実施できた(目標達成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年・教科による結果について検証し、子ども達の指導に反映できた。(目標達成) ・より授業との関係性によるテストの精度を高めることが課題。 <p>イ・各教科において検証することができた。しかし、駿々堂学力テストとの相関性については実証するまでには至らず、次年度への課題。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学力の児童に対する補習などの取り組みはできた。 	<p>引継ぎのこと。</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到達度テストの実施だけではなく、日頃の授業の質の高度化によるテスト内容の充実を目指す ・高学年での取り組みのみならず、低学年から受験を意識した取り組みや、学力差に対する取り組み内容を検討する必要あり。
--	--	--	--	--